

佐賀県研究成果情報

リン酸剤の発芽前散布による温州みかんの着花・果数の増加

[要約] 温州みかんの裏年における着花・果促進対策として、発芽前の2月下旬～3月上旬にリン酸剤を2回散布することで着花・果数が増加する。

果樹試験場・常緑果樹研究室			連絡先	0952-73-2275
部会名	果樹	専門	栽培	対象
				温州みかん

[背景・ねらい]

近年の温州みかん栽培においては隔年結果が著しく、連年の安定生産が求められている。そこで、裏年にリン酸剤の発芽前散布を行い、着花・果数の増加を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 早生温州、普通温州ともに、発芽前のリン酸剤の散布によって着花数が増加する(表1, 2)。
2. リン酸剤を散布すると、無散布と比較して主に直花数が増加し、新梢の発生は少なくなる(表1, 2)。
3. リン酸剤は2月下旬から3月上旬に2回散布すると着花促進効果が高い(表3)。
4. 生理落果後の着果数でも、リン酸剤散布区の方が無散布区より多い。

[成果の活用面・留意点]

1. 散布時期は2月下旬～3月上旬であり、その前後では効果が劣る。
2. 1回散布では効果が不安定であり、必ず2回散布とする。
3. 局部散布より樹冠全体散布の方が効果は安定する。
4. リン酸剤の種類では、ポリリン酸カリウム、リン酸マグネシウムの散布で効果が高い。ただしポリリン酸カリウムでは、樹勢により薬害を生じる場合があるので注意する。

[具体的データ]

表1 リン酸剤が早生温州の着花に及ぼす影響 (1998年4月30日)

	直花数	有葉花数	総着花数	新梢数
リン酸剤散布区	30.0	26.8	56.8	18.8
無散布区	14.3	27.5	41.8	30.0

※ 数値は旧葉100枚あたりに換算した

表2 リン酸剤が普通温州の着花に及ぼす影響 (2000年5月12日)

	直花数	有葉花数	総着花数	新梢数	着果数
リン酸剤散布区	10.7	13.5	24.2	10.9	3.0
無散布区	4.4	12.1	16.5	33.5	1.5

※ 数値は旧葉100枚あたりに換算した

表3 リン酸剤の散布時期が着花に及ぼす影響 (1998年4月30日)

	直花数	有葉花数	総着花数	新梢数
早期散布区	32.7	39.4	72.1	13.3
中期散布区	85.3	27.5	112.8	17.9
後期散布区	43.1	46.3	89.4	15.2
無散布区	35.6	47.0	82.6	30.9

※ 調査樹は早生温州を用い、数値は旧葉100枚あたりに換算した

早期散布区：1998年2月17日、2月26日

中期散布区：1998年2月26日、3月6日

後期散布区：1998年3月6日、3月18日

散布濃度はPとして0.5%含むように調整

[その他]

研究課題名：温州みかんの生態・環境情報収集による生育予測技術の開発

予算区分：県単

研究期間：平成5年～14年

研究担当者：貝原洋平、平野稔邦、新堂高広

発表論文等：平成10年度、12年度常緑果樹試験成績概要集